

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 山口 守

| | | |
|---|---|---|
| 研究課題 | | 華語語系文学の基礎的研究 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | 華語語系文学 Sinophone Literature は 2005 年前後からアメリカや台湾の中国文学・台湾文学の研究者が提唱したことで、世界的に広まってきた新しい文学研究の概念だが、日本ではまだそれほど認知が進んでいない。主な提唱者の David Wang (王徳威、ハーバード大学) と Shu-mei Shih (史書美、UCLA) では、華人の文学をディアスポラ概念で研究できるかどうかで見解が分かれるが、本研究では史書美に近い立場をとりながら、マイノリティ研究を視野に入れて、中国の非漢族作家や台湾の先住民族作家を主な研究対象とする。 |
| | 研究 の 結果 | 一昨年『三田文学』に発表した華語語系文学に関する日本語論文を基礎に、今年度は数年来の海外大学における同テーマの研究発表や講演の内容を補充して、中国語論文を完成させて、上海・復旦大学の雑誌『文学』に発表することができた。特に文学における音声と言語の身体性に関する考察が、従来と比べて深化したように思う。例えば音声言語が持つ現在性や身体性に注目してリグラヴ・アウやペマ・ツェテンの漢語創作をより強調して論じた点で、研究が少し前進したと自己評価している。 |
| | 研究 の 考察・ 反省 | 例えばリグラヴ・アウがパイワン語から漢語へ音声をどのように繋いで文学創作を行うのか、漢語の視点から創作実践を分析する課題はある程度進んだが、音声の現在性にとらわれて、音声記憶についてはほぼ研究が停滞している。この場合の音声記憶とは、音声による記録の意味ではなく、音声が持つ記憶や感情の喚起作用を指している。この点に関してリグラヴ・アウとペマ・ツェテンの漢語創作が異なることに留意して研究を進めることが今後の課題だと自覚している。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | <ul style="list-style-type: none"> 山口守「移民ネットワークと社会運動：三、アメリカ華人アナキストの社会運動」、『社会運動のグローバル・ヒストリー——共鳴する人と思想——』、田中ひかる編著、ミネルヴァ書房、2018年5月、93-124頁 山口守「巴別之後：華語語系文学 (Sinophone Literature) 的策略性及声音問題」、『文学』2018 春夏巻、2018年11月、復旦大学出版社、80-112頁 | |